INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

女子強化の夢を叶えるために

（財）日本ハンドボール協会強化副本部長　樫塚 正一

平成18年6月にサッカーWORLD CUPが開催されました。サッカーファンもスポーツメディアも日本チームの活躍に期待を寄せています。この様な応援や支援は、チームにとっても選手にも戦う前のメンタルな分野の強い支えになると推測しています。

ハンドボール競技も来年平成19年夏には、オリンピック予選が日本（男子）と韓国（女子）で開催されることが決定しました。前回の予選では出場権をほぼ手中に入れながら最後の1点差で出場することが叶わなかった記憶が鮮明に残っています。その後、強化部には蒲生強化本部長を中心とする新体制が形成され、新しい構想の強化を作り出しています。女子強化部もナショナルチームに初めてデンマークから外国人監督を迎え、ヨーロッパスタイルの練習を取り入れた強化が進み1年が経過しました。

監督Bert Bouwer率いる新チームは、昨年ロシアで開催された第17回女子世界選手権に参加し、世界でのランキングを確認してきています。1年の強化経緯からは戦術に関する考え方や取り組み方は変わったものの、戦績からみれば具体的な成果には届いていないと考えなければなりません。今日女子部の強化を図ろうとする環境には厳しい状況が伺えます。女子の歴史を顧みると1976年第21回モントリオールオリンピックに井薫監督が出場して以来、参加した記録は存在しません。また、女子世界選手権大会も1962年第2回ルーマニア大会から2005年第17回ロシア大会までの参加記録の中、過去5回の戦績をみればランキング16位～20位の戦績に終わっています。さらに、昭和51年に発足した日本リーグは昭和54年に1部（8チーム）、2部（3チーム）とチーム数を増やしていましたが、30周年を迎えた平成17年は5チームが活動している状況です。チーム数の衰退は、強化と密接な関係にあることは誰もが知るところと考えます。今後もこの状態が続くことがあるならば、強化方針の根本的な改革を行わなければ強化部の望みが叶うことは困難と考えています。トップチームのチーム数が増え、大学生、ジュニア層の若い選手達のチームを選択する範囲が広くなれば、選手層の厚さや色々なスタイルを持った選手をナショナル活動に参加するチャンスを与えることができます。この希望が望める環境を作ることが不可能であれば、少数の選手を具体的に強化する徹底したトレーニングの改造に着手する決断と勇気を求められると考えています。ジュニア層の強化は順調に進められる環境が見えており、U-23、ナショナルの具体的な強化策が我々スタッフに残されており、強化スタッフはこの部分に英知を働かさなければ課題を解決することはできません。ナショナルチームに関していえば、新監督のもと、1年間の強化を図り世界選手権に参加してチームや個人の課題は確認できていると考えています。

漠然とし抽象的だった「もの」が具体的にみえ「必要」な「セオリー」を確認できる状態に改善し、今年開催されるアジア大会には成果を残してほしいと同時に、若いジュニア層に将来の夢が持てる強化に繋げるものでありたいと強化担当として責任を感じております。

平成17年度 第1回春の全国

大会を振り返り

春の全国中学生ハンドボール選手権大会氷見市実行委員会事務局次長　宝住 哲郎

平成16年9月、総務省と文部科学省が連携し、（財）地域活性化センターが実施する「スポーツ拠点づくり推進事業」が発表されました。この事業は、青少年があこがれ、目標とするスポーツ毎の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与することを目的とされております。氷見市では、この事業を通じてスポーツ、特に実績のあるハンドボールを通じて交流人口の輪を広げ第7次総合計画にある200万人交流都市の実現を促進し、地域の活性化を図りたいと考えました。

（財）日本ハンドボール協会は、「アテネオリンピックアジア予選」が開催された2003年の神戸での苦い思い出を教訓として、プロジェクト21構想を立ち上げ、普及と強化が両輪となって強いJAPANナショナルの復活とスポーツとしてのハンドボールの浸透を目指していたところであり、両者は、氷見を「ハンドボールの聖地」に、を合言葉に一致協力して実施することに合意しました。

しかしながら、いざ開催となると多くの諸問題がありました。開催時期、対象を中学1、2年生かU 15か、合同チームかピックアップチームか、夏の全中の前哨戦としての春全中かクラブ対抗か、予選会、運営スタッフ、予算をどうするか、それにもまして青少年があこがれ、目標とする大会をどのようにイメージするか。

結論として、この大会を単なる全国の中学校の新人による学校対抗戦にするのではなく、総合型地域スポーツクラブなど、広く地域のスポーツクラブにも門戸を開くこととしました。

冬場の長く辛いトレーニングに耐えたその成果を、どの子にも平等に発表する機会を与えたい。全国の強豪と相い交え互いに切磋琢磨することや、試合だけではなく全国各地の仲間や地元の人々との様々な交流を通じて育まれ生まれ出るものは、参加する子どもたちの今後の人間形成のうえでも有意義なものとなるに違いない。これが議論を交わしながらも互いに持っていた共通の思いであった様な気がします。

申し込み締切日までに、何チーム参加していただけるかわからず最後までドキドキいたしましたが、皆様方の熱いご支援・ご協力のお蔭様で46都道府県から男子47チーム、女子45チームが参加する中学生の大会として最大の大会となることが出来ました。

開会式セレモニーでは、正に子どもたちのあこがれであるJAPANナショナルの皆様が会場に駆けつけてくださり、サイン会や握手会撮影会を通じ、あこがれの代表選手に直接触れ合う喜びを与えていただきました。

また、その後も、サービス精神たっぷりのパフォーマンスを披露していただき、開会式ではその代表選手に迎え入れていただいての堂々の入場行進を行うことが出来ました。

この感動的な開会式の演出にご協力くださった多くの関係者と特にJAPANナショナルの皆様に感謝いたします。

大会は男女とも関東ブロック、中国ブロック、九州ブロックのレベルが高く一歩リードした結果となりましたが、秋田湯沢南の健闘が光りました。開催県の代表チームは、地元の大声援を受け初戦は突破しましたが、目標のベスト4入りはどのチームも果たすことが出来ず少し残念な気がしました。

さて、この大会の特徴でもある地域のクラブチームの参加については、青森県の男女のスポーツ少年団、新潟県男子の地域の少人数スポーツクラブの合同チーム、広島県の男女がクラブチームとして参加していただきました。中学生大会の新時代を迎えたと感じるべきか、一過性のものか更なる研究が必要となってきているように感じます。

そのほか、初の試みとして敗者チームを対象に行った交流試合には、男子32チーム、女子31チームが参加し、公式戦に匹敵するくらいの盛り上がりを見せました。ただ、狭いコートで充分な環境ではなかったことをお詫びするとともに、次回からは氷見市以外の会場にも目を向けたいと考えています。

私たち氷見市民は、本大会を迎えるに当たり、全国からやってくる人々を温かく迎え、安心してプレーが出来るようサポート体制を整えました。市内を47地区に分け、各地区でチーム担当サポーターや応援担当サポーターを選出し、出場した46都道府県（92チーム）の支援・応援に努めるなど氷見市を訪れたチームや父兄との交流を図らせていただきました。大会期間中、中央競技団体役員、チーム役員・選手、保護者延約6,000人が市内旅館・民宿に宿泊し60,000人弱の小都市氷見市が昼夜賑わい活気づきました。

本大会は、今年を皮切りに10年間、氷見で開催させていただくわけですが、氷見で育ったナショナル選手が世界のひのき舞台で活躍する日が来ることを確信し、今後とも頑張り続けたいと思います。

終わりに、本大会にご来会いただいた全ての方々に感謝申し上げると共に、この大会を何とか育て上げようと献身的なご助力を賜った、（財）日本ハンドボール協会、（財）日本中学校体育連盟ハンドボール専門部の皆様ほか関係各位に衷心より感謝の意を表し、筆を置かせていただきます。

中学生ハンドボール選手権大会

男子優勝チーム

日本一に向け７人の結束力

東京都東久留米市立西中学校ハンドボール顧問　尾石 智洋

この度は、記念すべき第１回大会において優勝できたこと、とても嬉しく思っています。大会を振り返ってみても、我が部はメンバーがぎりぎり７人ということもあり、ケガの対策を万全にしてきたつもりでした。しかし、大会中にケガ人が出て、一時はどうなるかと思いました。ところが、そのケガをしたことによって周りのメンバーが、それぞれの役割や気持ちの面で更にたくましくなりました。

７人のメンバーは仲が良く、いつもハンドボールの話をして盛り上がっています。そんな雰囲気が私は大好きです。そして、コーチの知名をはじめ、周りにたくさんのハンドボール好きな大人に囲まれ日々練習をしています。また、昨年夏の大会で、女子が勝ち、次は自分たちだという相乗効果が生まれていたことも勝因かと思っています。

写真提供：スポーツイベント社

大会の決勝戦（沖縄県神森中戦）は、お互いの力と力がぶつかり合い、素晴らしいゲームでした。高度なハンドボール技術が、中学生で少しずつ身についていることが証明できた試合だと思っています。日々進化し続けている世界のハンドボール、日本のハンドボールのことを意識し、今後とも指導にあたりたいです。

そして、今大会の運営に関しまして、感謝の気持ちでいっぱいです。氷見市のハンドボールに対する思いが、様々なところで感じました。サポータークラブを立ち上げてもらい、地域の皆様で応援して下さったり、会場では大漁鍋を振る舞って下さったり、テレビ、新聞の報道でもすごいものがありました。また、金原 至先生はじめ関係者の方々には本当にお世話になりました。更に、縁あって応援して下さっている、氷見出身の澤田英夫さんとは、いつの日か氷見の地に生徒を連れて行きたいと約束をし、その念願が叶いました。本当に応援ありがとうございました。

今大会で得たことを糧に、夏までにしっかりとチームをまとめ、どの大会でもアベックで頑張っていきたいと思います。そして、その中で、ハンドボールの楽しさを生徒たちにしっかり伝えていきたいと思っています。ありがとうございました。

写真提供：スポーツイベント社

女子優勝チーム

優勝の喜び

倉敷市立下津井中学校ハンドボール顧問　麻生　薫

岡山県の最南端にある下津井中学校は、壮大な瀬戸内海と瀬戸大橋に面する小さな漁師町にあり、全校生徒が 179 人という倉敷市内でも 1・2 位を争う小規模校です。それ故に地域全体が非常に親密で、このチームも角南３姉妹（涼・唯・果帆）、加陽姉妹（祐希・生子）を始めとする、姉妹関係・親戚関係で構成されています。また、他の選手同士も幼少の頃から家族・姉妹同然に育てられたという経緯から、保護者・選手・地域を含め、ハンドボール部全体が１つの家族のようであるのが、下津井中学校の最大の特徴です。その小さな下津井中学校が、全国優勝という偉業を成し遂げ、歴史に名を刻むことができたことは、この上なく嬉しいことです。

写真提供：スポーツイベント社

今大会で、チームにとって非常に苦しかったのは、大黒柱である角南唯の怪我でした。全国大会優勝に向けて夢や希望に溢れていた矢先の怪我でしたので、選手も本人もしばらくショック状態が続きました。

妹である角南果帆を投入した後も、全国大会というプレッシャーとレギュラーという責任を背負い、異様な緊張感の中で練習したことを覚えています。

そんな彼女達も、「自分達でなんとかしなくては」ともがいていたのでしょう。第１回戦目の南八下・第２回戦目の西中原の試合では、キャプテンの中野、落ち着いたキーピングでチームを引っ張る加陽（祐希）、果敢に攻めることで頭角を現した角南（涼）を中心に復活の兆しが見え始めました。どの試合も苦しかったに違いはありませんが、「気持ちも体力も全部、このゲームに注ぎ込もう」とみんなで誓い、みんなで乗り越えた試合……やはり東久留米西中との試合を制したことがとても大きな自信につながったのではないでしょうか。

中国ブロック同士の意地がぶつかり合った、準決勝。先日までの勢いは見る影なく、流れに乗りきれず、終始苦しいゲームとなりました。疲労のピークからか、決勝進出を決めた後でも歓喜の表情はなく、「せっかくここまで来たんだから、１番楽しいゲームにしよう。負けたら、帰ってまた練習すれば良い」と声を掛けるしかありませんでした。

そして決勝戦。直前までハプニングがありましたが、あとは選手を信じるのみ。コートの中には、この決勝戦という大舞台を心から楽しむ 13 人の笑顔が溢れていました。精神的・体力的にも限界を超えているはずなのに、自分達のハンドボールをしよう、今までで一番いい試合をしようという一人一人の強い思いが、あの歓喜の瞬間を導いてくれたのだと思います。

こんな素晴らしい結果が得られたのは、他のチームには真似できない選手達の結束力と地域のサポート、岡山県ハンドボール協会の長い歴史、素晴らしいスタッフのバックアップのお蔭です。また、県内外を問わずご支援・ご指導してくださった皆様に大変感謝をしています。

最後に今大会の運営にあたり、ご尽力くださいました皆様に厚く御礼申しあげます

【男子】

▼準決勝

東久留米西　31（15－8、16－14）22　湯沢南
（東京）　（秋田）

［戦評］東久留米西２番青木のロングシュートで先制。湯沢南は、５番高橋が長身を生かしロングシュートを狙うが、ゴール枠内をとらえることができない。前半４分過ぎにポストシュートやロングシュートで３連取した東久留米西がリズムをつかみ、徐々に点差を広げた。その後も堅いディフェンスからの速攻で点数を重ねた東久留米西の７点リードで前半を折り返した。

後半に入り、湯沢南は、ロングシュートや速攻などで一時リズムをつかみかけたが、東久留米西の堅い守りの前にはばまれた。逆に東久留米西は、２番青木のロングシュートや３番ケネスのポストシュートなどで着実に点数を重ねた。湯沢南も速攻で点差をつめようとしたが、結局は終始リズムをつかんだ東久留米西が９点差で勝利を収めた。

神　森　29（14－12、15－8）20　けやき台
（沖縄）　（茨城）

［戦評］前半立ち上がりは、けやき台の９番白石のサイド、４番八木のミドル、２番中村のカットインなどで４連取。神森は２番通事が２連取で点差を縮め、その後は両ゴールキーパーの好セーブもあって、一進一退のゲームとなった。前半19分に神森の13番上里のミドルを皮切りに６番比嘉の速攻などで４連取、一気に逆転に成功。

後半、神森のエース上里、キャプテン又吉らのテクニックあふれるプレーで確実に得点を重ね、終始ゲームをリードした。選手同士が非常に高いレベルのテクニック、駆け引きを持つ、今大会屈指の好カードは神森が９点差で制した。

▼決　勝

東久留米西　28（13－13、15－13）26　神　森

［戦評］神森のスローオフで試合開始。２番青木、５番田口を中心にセットプレーで確実に得点を重ねる東久留米西に対し、神森も13番上里、14番又吉の個人技や速攻で応戦し、互角の戦いとなる。前半ラスト１分、神森14番又吉のスカイプレーで１点リードするも、終了間際、東久留米西６番石原のサイドからのシュートで再び同点となり前半終了。

後半開始早々、東久留米西は、１番ゴールキーパー斎藤を中心に堅い守りから確実に得点し、５点連取。神森も４－２ディフェンスから３－３ディフェンスに切りかえ、流れを変えようとする。ラスト４分から神森は、６人によるプレスディフェンスで相手のミスを誘うが、東久留米西がおちついて攻撃し、28対26で第１回大会の優勝を飾った。また、惜しくも２点差で涙をのんだ神森も、14番又吉を中心とした攻撃力には目を見張るものがあった。

【女子】

▼準決勝

鶴　城　26（13－7、13－10）17　東　陽
（熊本）　（大分）

［戦評］九州対決となった準決勝。鶴城はローリングフォーメーションから８番浦本が飛び込み先制。その後も鶴城２番諌山のミドルなどで得点し４対０とリードを広げる。対する東陽は出足の動きが固く、鶴城の１－５ディフェンスを攻めあぐねていたが、８分過ぎからようやく足が動き始め、フットワークの良いディフェンスから速攻で４対５と１点差まで追いついた。しかし、鶴城の多彩な攻撃が冴え、２番諌山、６番谷河を中心として得点を重ね、前半は13対７で鶴城６点リードで終了。

後半立ち上がり、東陽は３番岡村の連続得点でペースをつかみかけたが、鶴城は堅いディフェンスとゴールキーパー１番川崎の好守から速攻をしかけ、10分過ぎに20対10とリードを広げた。東陽はゴールキーパー１番安西が７ｍスローを阻止するなど必死に反撃のきっかけをつかもうとするが、流れを引き寄せることはできず、26対17で鶴城が決勝進出を果たした。

下津井　17（8－6、9－5）11　岩　国
（岡山）　（山口）

［戦評］前半、両チームとも堅いディフェンスで互いに攻撃のリズムをつかめない状態が続く。岩国は９番林を中心に速いパス回しでカットインを狙う。岩国は３本の７ｍスローを確実に決め得点を重ねる。一方、下津井は速攻を中心に得点を重ね、岩国を突き放そうとするが、前半終了前、岩国の連続得点を許し、下津井が２点リードで折り返した。

後半、攻撃のリズムを一気に取り戻した下津井が相手のミスを速攻につなげ、再び岩国を引き離した。岩国は中間ポストを生かしながら粘り強く攻撃するが、下津井ゴールキーパーの１番加陽に阻まれ追いつくことはできなかった。

▼決　勝

下津井　26（14－12、12－5）17　鶴　城

［戦評］立ち上がりから両チームとも足がよく動き、決勝戦にふさわしく白熱した試合展開となった。下津井は多彩な攻撃で序盤８対３とリードする。一方、鶴城も粘り強いディフェンスから速攻にもちこみ、徐々にリズムをつかんで２点差まで追い上げ前半を折り返した。

後半に入っても、中盤まで20対17と一進一退の攻防が続く。しかし、後半17分、下津井７番松本のインターセプトからの速攻を皮切りに連続得点で22対17とし、鶴城に点差をつめさせない。結局、最後まで下津井が走りきり９点差で勝利を収めた。

PHOTO GALLERY PHOTO GALLERY PHOTO GALLERY PHOTO GALLERY

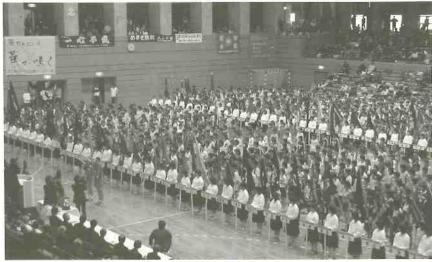
「ハンドボールの聖地」を目指す氷見ならではの町を挙げての大会運営

会場を結ぶシャトルバスも運行

こんなところまで（氷見市海浜植物園）

会場体育館の廊下には参加チームの寄せ書きが一面に

堂々の入場行進

元気に選手宣誓

会場を埋め尽くした参加92チームの面々

手作りの衣装で着飾った「寒ぶりっ娘」によるショータイム

オープニングセレモニー

チーム毎にボランティアの方々が選手をサポート

会場に駆けつけたサポーター

「寒ブリの歌」を熱唱する氷見市立東小学校６年の皆さん

男子
ナショナル
チーム
新監督に

Ivica Rimanic 氏 就任

イヴィツァ・リマニッチ

イヴィツァ・リマニッチ監督のコメント

日本代表チームの監督に就任できて、非常に嬉しく思っている。北京オリンピック出場を果たして行きたい。しかしながら、私一人では、成し得ない。選手一人一人が努力して、成果を出していくことが第一である。また、日本ハンドボール協会の皆さん達の協力がなければならない。

アジアの勢力は、やはり日本と韓国が1位・2位だろう。自分の指導の経験では、中東諸国と対等に闘えば、日本・韓国が勝つだろう。来年9月のアジア予選は、地元豊田市で開催されることから、ハンドボール関係者ならびにファンの皆さんの後押しもあると考えると、韓国にも充分戦えると思う。日本代表チームは、「日本の侍の精神」で闘うことができるだろう。

私自身の考えは、強くアグレッシブなディフェンスを築き上げて、積極的に速攻を狙っていくようにしたい。まず、アジア大会まで基本的な戦術をトレーニングして、選手を見極めながら、目標に向っていく。

ハンドボールのファン、マスコミ、ハンドボール関係者の支援をお願いしたい。

［新監督就任記者発表から］

イヴィツァ・リマニッチ氏　プロフィール

■生年月日：1956年11月3日、49歳／■国　籍：クロアチア共和国、ノルウェー王国
■経　　歴：

《選手として》
クロアチア、ユーゴスラビアのトップレベルで10年間（ナショナル数回）
1984 - 1996　ノルウェーにてベテランリーグ選手など

《指導者として》
1976 - 1981　クロアチアでジュニア層のコーチを始める
1981 - 1983　クロアチア1部（Podravka）のコーチ
1984 - 1996　ノルウェー1部（Byasen, StavangerI.F., Nordstrand2000）
1996 - 1997　オーストリア女子ナショナルチームヘッドコーチ――ヨーロッパ選手権第3位
　　　　　　Hypo（オーストリア）にてオーストリア選手権優勝
1997 - 1998　Podravka（クロアチア）でヨーロッパチャンピオン
1997 - 1999　ノルウェー男子ナショナルチームヘッドコーチ――ヨーロッパ選手権予選リーグ3位
　　　　　　Fyllingern（ノルウェー）コーチ
1999 - 2001　Al Salmiya（クウェート）
2002 - 2005　Nordstrand2000（ノルウェー）
2005 - 2006　サウジアラビア男子ナショナルチームヘッドコーチ――西アジア選手権第3位
1988 - 2005　ノルウェー、クロアチア、デンマークでのトップコーチシンポジウム講師

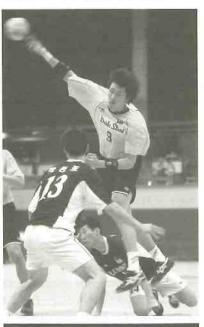
【男子ナショナルチーム新アシスタントコーチ】

Nemes Roland（ネメシュ・ローランド）氏　プロフィール

■生年月日：1975年10月5日、30歳／■国　籍：ハンガリー共和国
■経　　歴：

《選手として》1995 - 1999　ハンガリー体育大学、ハンガリー1部でプレイ（インカレ優勝、準優勝）

《指導者として》
1999 - 2002　岐阜県スポーツ交流員（ハンドボール専門者）として来日、12-18歳の男女チームを指導。
　　　　　　インターハイベスト8（女子）、インターハイベスト16（男子）
2002 - 2003　岐阜県大学非常勤講師
2005 -　　　筑波大学研究生、男子ハンドボール部コーチ 関東学連秋季リーグ戦優勝・インカレ優勝
2006 -　　　筑波大学大学院修士課程

OMRON CUP
第　3　回
東アジア
クラブ
選　手　権

東アジアクラブ選手権報告

第3回東アジアハンドボールクラブ
選手権大会運営副委員長　西窪 勝広

オムロンカップ第3回東アジアハンドボールクラブ選手権が4月14日より3日間、京都市体育館で開催されました。

東アジアハンドボール連盟とは2002年10月に東アジア地域の競技力向上と諸国間の密接な協力の下、ハンドボールの健全な運営を目的として発足した連盟です。

2004年4月に東アジアハンドボール連盟主催の大会として東アジアハンドボールクラブ選手権を開催し、第1回を韓国で、第2回を中国で実施し、今回日本開催の運びとなりました。

この事業は日本ハンドボールリーグ機構の年間計画の大会でもあり、運営に関してはプレーオフと同様に観戦頂く皆様に感動して頂く企画を立案し、京都府ハンドボール協会と細部に亘る打合せの下、一丸となって取り組んだ大会でもありました。

京都府のオムロン株式会社に特別協賛を頂き、初めての冠大会として開催できました事に感謝申し上げる次第です。

株式会社アシックス、株式会社モルテン、大塚ベバレジ株式会社にもご協賛いただき大会を盛り上げて頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

また、京都府ハンドボール協会のご尽力で多くのボランティアの方々に運営に携わって頂いたことが大会を無事終了できる原動力となりました。

試合も連日、白熱した試合が展開され、会場と一体となった応援が選手のモチベーションを高める要因となりました。

そして、最後まで素晴らしい試合を展開してくれた各国のチームと、ご観戦頂き暖かいご声援をお送りいただいた皆様に感謝の気持ちで一杯です。

最終日には男女の決勝戦をテレビ放映も実施して頂いたKBS京都様の事前告知で大会PRに努めていただいた事で最終日は1500人の集客に結びつけることが出来ました。

そして、多くのハンドボール愛好家の方々にテレビ観戦して頂いたとお聞きし嬉しく感じる次第でした。また、宮崎大輔選手にはサイン会において多くのサポーターに対応して頂き、ファンのサービスにも努めることができました。

日本で初めての開催でしたが多くの方々にご支援、ご協力頂き無事大会を終えることが出来ました。

ご協賛いただいた各社に感謝申し上げ、大会開催にあたり京都府、京都市教育委員会、京都府ハンドボール協会のご尽力に厚くお礼申し上げ東アジアハンドボールクラブ選手権大会のご報告といたします。

4点共　写真提供：スポーツイベント社

試合結果 男子

HC Korosa　27（14- 9, 13- 7）16　Beijing

大同特殊鋼　29（11-15, 18-13）28　大崎電気

序盤から激しい攻防を繰り広げる両チーム。若干、手にボールが付かない大崎であったが、GK12 番濱口が気迫のセーブを連発しペースを取り戻す。大崎のいつにも増して高いディフェンスに攻めあぐねる大同、３番趙、21 番富田で加点し粘るも、岩本、中川、宮崎と強力な攻撃陣が差を詰めさせず 15 － 11 大崎４点リードで前半終了。

後半出だし、20 番白を中心に本来のスピードを取り戻した大同、17 番山本、４番末松で加点していく。大崎も２番豊田、19 番猪妻の速攻で応戦。14 分過ぎ 22 － 18、両チーム激しいディフェンスで退場者が出始める。15 分、大崎２番豊田が３度目の退場でコートを去り、チャンスを迎えた大同、22 分に末松、白が決めて 24 － 24 の同点とする。意地をかけた両者の戦いは 29 分過ぎ、白のカットインで 28 － 29 と逆転した大同が残り５秒中川の渾身のステップを防ぎ、大崎を下した。

大同特殊鋼　30（16-12, 14-15）27　Beijing

立ち上りから、両チーム果敢な攻撃で点を取り合う。強烈なミドルを立て続けに打込む中国７番ジュウに対し、大同は 20 番ペクの 7m スロー、17 番山本のサイドシュートで確実に加点する。中盤以降も７番ジュウ、10 番リウでパワフルに攻める中国 Beijing に対し、大同は 25 番浦田を投入して中国ディフェンスに揺さぶりをかける。高いアタックディフェンスを仕掛ける大同が徐々にペースをつかみ、16 － 12 と４点リードで前半を終える。

後半大同は 22 番渡久川、10 番畠中を投入し、出だしに勢いをつける。その畠中の連続ゴール等で点差は７点まで広がったが、中国も全く諦める気配なく、絶好調の７番ジュウは 10 得点、６番ガァン、８番パンが思いきりよく決めてくる。足が止まり苦しい大同は 20 分、遂にカン・ジェオンが登場すると立て続けにミドルを決めてみせる。最後まで粘る中国だったが、上手い選手起用でペースを維持した大同が勝利した。

HC Korosa　32（18-13, 14-14）27　大崎電気

前半早々、KOROSA ゴールキーパー 16 番姜が、大崎の８番岩本、２番豊田らのシュートをことごとくセーブし、その間にも韓国 20 番李の豪快なシュートも決まり、前半 10 分には３－８と５点のリードとなる。しかし 15 分過ぎ、韓国の退場の間に、大崎８番岩本のロングシュート、２番豊田の速攻が決まり、一時は２点差まで追い上げる。この後は両チーム退場者があり、前半は 18 － 13 HC KOROSA リード折り返す。

後半に入ってすぐ、大崎７番永島、２番豊田が退場となり一気に８点差となる。その後、大崎２番豊田のスカイプレー、９番森本の 7m スローで応戦するが前半の大量リードを返すことが出来ず、32 － 27 で HC KOROSA が快勝した。

大崎電気　31（15-12, 16-16）28　Beijing

立ち上り、大崎は３：２：１ディフェンスで Beijing のパワフルプレーを封じ込める間に、10 番太田、４番前田の速攻が決まり、大崎ペースで試合が進む。開始８分には、7 － 2 となり、Beijing がタイムアウト。その後、Beijing17 番 Geng Bingren のサイドシュート、７番 Zhu Xinchen の速攻で必死にくらいつくが、大崎の３：２：１ディフェンスが崩せず、15 － 12 大崎のリードで前半を折り返す。

後半に入り、開始早々、大崎は４番前田の連続得点等で着実に加点する。Beijing が 10 番 Liu Tao、11 番 Feng Ning の得点で反撃の糸口をつかみかけ、一時は２点差までつめよるが、大崎２番豊田の鮮やかなスカイプレーが決まり大崎が快勝した。

HC Korosa　30（19-15, 11-14）29　大同特殊鋼

序盤から点の取り合い。Korosa、リ・ジュンヒのミドルが大同ゴールに突き刺さる。大同も３番チョ・ボンヨンが打ち返す。当然ペクも黙っていない、豪快なミドル、ルーキー冨田とのコンビネーションを決める。流れが傾いたのは 20 分、大同ペクが２度目の退場を受けたあたりから、15 番リ・テーヨン、20 番リ・ジュンヒが立て続けに得点し、26 分 13 － 19 と Korosa が逆転する。大同は前半終了間際、４番末松の連続得点で 15 － 19 とする。

後半は開始直後から大同が一気の追撃。ペク、武田、山本、の連続得点で 19 － 19 の同点。Korosa は GK12 番カンの好セーブから立て直し、逆に４連取する。大同は、GK 高木がようやく本来の当りを戻し徐々に詰め返し、25 分には２番松林が飛び込み 27 － 28 とする。Korosa もリ・ジュンヒがスカイプレーから渾身のシュートを決め３点差。粘りに粘る大同はオールマンツーディフェンスを仕掛け 29 ― 30 と１点差に。残り 15 秒、遂に同点のチャンスが巡ってきたが、Korosa ディフェンスを破れず試合終了となった。

試合結果 女子

大邱市庁　33 (18-13, 15-16) 29　広島メイプルレッズ

両チーム動きが硬い立ち上がり。大邱は９番金、11 番崔、13 番朴の力強いディフェンスで徐々にペースをつかみ、15 分過ぎ 12 － 9 と３点リードする。メイプルは４番青戸、13 番杉本を外した布陣で挑むがオフェンス、ディフェンス共にリズムが出ず苦しむ。前半は 18 － 13 と大邱５点リードで終了。

後半立ち上がり、22 － 20 と２点差に詰寄るメイプルであったが、この試合好調の９番金等の得点で再び引き離す大邱、20 分過ぎには 29 － 21、８点差とする。最後まで粘りを見せたメイプルだったが、終始安定した試合運びの韓国・大邱市庁が勝利した。

男子

◆順位表

順　位	勝	分	敗	得点	失点	差	点
① HC Korosa（韓国）	3	0	0	89	72	17	6
②大同特殊鋼	2	0	1	88	85	3	4
③大崎電気	1	0	2	86	89	-3	2
④ Beijing（中国）	0	0	3	71	88	-17	0

◆個人表彰

最優秀監督賞	HONG SANG-HO（HC Korosa）
ベストセブン	Zhu Xinchen（Beijing） 豊田賢治（大崎電気） 末松　誠（大同特殊鋼） 武田　亨（大同特殊鋼） 白　元喆（大同特殊鋼） KIM JANG-MOON（HC Korosa） KANG IL-KOO（HC Korosa）
最優秀選手賞	LEE JUN-HEE（HC Korosa）

女子

◆順位表

順　位	勝	分	敗	得点	失点	差	点
①オムロン	2	1	0	89	74	15	5
②大邱市庁（韓国）	2	1	0	84	70	14	5
③ Beijing Army（中国）	1	0	2	79	95	-16	2
④広島メイプルレッズ	0	0	3	86	99	-13	0

◆個人表彰

最優秀監督賞	黄　慶泳（オムロン）
ベストセブン	金　鎮順（広島メイプルレッズ） LI Weiwei（Beijing Army） KIM CHA-YOUN（大邱市庁） SONG HAI-RIM（大邱市庁） AN JUNG-HWA（大邱市庁） 勝田祥子（オムロン） 洪　廷昊（オムロン）
最優秀選手賞	佐久川ひとみ（オムロン）

オムロン　34（20-12, 14-15）27　Beijing Army

先制したのはオムロン。18番東濱のカットイン、佐久川のスカイプレーも見事に決まり、オムロンがペースをつかんだかに思えたが、その後オムロンのミスが続き、その間に中国の5番宗、15番徐の長身を生かしたロングシュートが立て続けに決まった。しかし序盤から、オムロンが運動量を生かしたディフェンスで中国のミスを誘い、逆速攻などで20－12で前半を折り返す。

後半に入り、オムロンGK勝田の体を張ったナイスセーブが連続し、前半に続きオムロンペースで試合が進む。しかし中国も意地をみせ14番李、11番Liuの連続得点で後半17分に3点差まで追いつく。ラスト5分過ぎからは、オムロンの攻撃が次々と決まり、終わってみれば34－27とオムロン快勝となった。

大邱市庁　30（20-5, 10-15）20　Beijing Army

オムロン　34（19-12, 15-14）26　広島メイプルレッズ

前半からオムロンペースとなり、19番ホン・ジョンホを中心とし、攻撃では18番東濱へのスカイプレー、自らのロング速攻へつながるポストへの絶妙なパス等で着実に得点を重ねて、試合の主導権をにぎった。

後半になってもオムロンペースは変らず、オムロンは広島メイプルに大勝した。広島メイプルでは15番キム・ジンスンが10得点と、キーパー高森が前半7mスローと25分、26分の連続でノーマークシュートを止めたのが印象に残ったプレーであった。

Beijing Army　32（14-17, 18-14）31　広島メイプルレッズ

序盤GK浅井の好セーブ連発で勢いづくメイプルは、2番土屋、10番呉等で得点を重ねる。中国は退場者が続き苦しい展開だが、高い打点を活かした攻撃で応戦し18分過ぎ10－10の同点とする。26分中国は、5番ソンを3度目の退場で早々に失ってしまう。前半は17－14とメイプル3点リード。

後半に入っても両チームの激しい攻防が続く。19番リ・ウェイウェイがキレのあるフェイントからシュートを決めれば、メイプルはこの試合動きの良い11番坂口で取返す。両チーム体力を使いきった終盤、勝利への気持ちが両チームを動かしている。中国が先に点を取る展開で進む。GK浅井、10番呉で必死に喰いつくメイプルであったが、残り3秒、呉のシュートが防がれ試合終了。

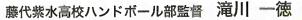
オムロン　21（10-9, 11-12）21　大邱市庁

試合開始直後、オムロン18番東濱のシュートで始まったが、10分すぎまで両チーム共少しかたさが見られたのか、10分すぎまで2―2のロースコアの争いになった。両チームのキーパーのナイスキーピングもロースコアの展開につながった。前半20分ぐらいまでは、6－4でオムロンが勝っていたが、20分すぎから徐々に韓国が11番CHOI IM-JEONGの7mスロー、15番LEE EUN-JIN、16番JUNG MYUNG-HEEの連続シュートで盛り返したが、前半は10－9の1点差で終わった。

後半は、両チーム共優勝を意識した一進一退の緊迫した試合となり、1点を争う好ゲームとなった。オムロンが1点負けていた試合を最後の7mスローを6番吉田が決めて同点で終わり、得失点差でオムロンの優勝が決定した。会場内のオムロンの大応援団の力ももらい、オムロンの初優勝が決まった。

3月22～27日、東京体育館他で行われた第29回全国高校ハンドボール選抜大会。前号（№470）では、試合結果等を掲載いたしましたが、今号では男女優勝チームの監督のコメントをご紹介します。

男子優勝チームの声

感謝の気持ちを込めて

おかげさまで、この度の全国選抜大会において初優勝することができました。前任の伊奈高校から異動させて頂き、ちょうど3年目が終わるこの大会において勝つことができたのも素晴らしい環境を与えて下さった前校長の箕輪匡子先生、現校長の長峰一男先生をはじめ、学校をあげて応援して下さった諸先生方、絶大なるバックアップをして下さった保護者の方々、「伊奈高校と付き合っていたんじゃない、お前と付き合っていたんだ」と試合に出場できるぎりぎりの人数でありながらも遠征等で鍛えて頂いた学法石川高校の小針先生や國學院栃木高校の中山先生、部員4人でスタートした時にもお電話を頂き励まして下さった浦和学院高の岩本先生や氷見高の金原先生、県協会、県高体連はじめ多くの先生方から勇気を頂きました。また、伊奈高校の卒業生やその保護者の方々にも「先生の応援団だから」と地区大会にしか出場できない時にも応援に来て励まして頂きました。他にも数え切れない程の方々に支えられ、励まされ、そしてひたむきで素直な素晴らしい選手にも恵まれこのような結果を残すことができました。感謝の気持ちでいっぱいでございます。

思えば3年前の3月14日、異動の内示を頂き、選手に伝え、伊奈高校の選手とともに大泣きした日から今日まで、伊奈高校在職中は感じることのできなかった、あるいは忘れかけていたことを思い出させて頂いた日々がたくさんありました。

赴任した当初、1人で頑張っていた3年生の選手が「目標は何だ？」という問いかけに「地区大会で優勝して県大会に出たいです」と。2ヶ月後、その目標を達成した時は選手が大泣きしていました。私も胸がいっぱいになりました。それまではいつの間にか「日本一」だけが目標のように感じてしまっていた私に大切なことを思い出させてくれました。そして「あと1年遅く生まれたかったです」こう言ってくれました。

紫水高校を強化しつつ、残してきてしまった選手がいる伊奈高校との合同練習を3年間続けてきましたが、辛いときでも恩師松井幸嗣先生からの教えである「苦しい時こそ頑張れ」を何度も何度も自分自身に言い聞かせ、乗り越えてくることもできました。その間、監督として静岡国体で優勝、山口インターハイでも教え子である飯村先生と二人三脚で優勝し、今回で6度目の感激を味わうことができました。本当に本当にたくさんの方々の支えのおかげと感謝致しております。

今後も素晴らしい環境と、支えて下さる多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、精一杯努力していきたいと思います。今後ともご指導頂けますよう宜しくお願い致します。本当にありがとうございました。

写真提供・スポーツイベント社

平成17年度 第29回全国高校ハンドボール選抜大会

女子優勝チームの声

第29回全国高校ハンドボール選抜大会を終えて

高岡向陵高等学校ハンドボール部監督　大森　聡

近年の世界選手権などを見ていますと点が取れないと勝てない状況にあります。日本リーグにおいてもハイスコアが当然になってきています。攻撃回数を意図的に増やす戦略が当然となり、ルール自体もハンドボールをそのような方向へ後押ししています。

このような傾向にあるハンドボールの未来を背負う選手たちに、まずこのことを浸透させなければならないのではないか、そう考えました。

今年度のチームは「点を取りにいくこと」をテーマに取り組んでいます。幸いにして能力に恵まれ、努力を惜しまない素晴らしい選手たちにかかわれる今、このようなハンドボールにチャレンジできるチャンスと考えました。そのために、攻防の切り替えのスピードアップ、セットオフェンスではシュートを狙い続ける継続性を重視してトレーニングを積んできました。

まだまだ目指すハンドボールには到達していませんが、今大会では幸運にも最終日のコートに立つことができ、喜び一杯の中で試合をさせていただきました。

しかしながら、今大会での自チームのような消極的なディフェンスでは攻撃回数を増やすことはできず、もっとボールを奪いにいくような積極的な姿勢が必要と考えていますし、その他にも課題はたくさんあります。

私たちはもっともっといいハンドボールができるはずだと思っています。ですから選抜大会を終えた今もそのチャレンジは現在進行形です。

今回の結果はいうまでもなく本当に多くの方々のお力があったからこそです。選手たちを家庭で支えてくださったご家族の皆様、小学校、中学校でこの選手たちに夢を与え大きく育ててくださった指導者の皆様、夢を後輩に託していった卒業生ならびにそのご父兄の皆様に本当に感謝しています。さらには、様々なバックアップをしていただいた県協会、市協会の皆様、今まで支えてくださった学校関係者の皆様本当にありがとうございました。

最後になりましたが、素晴らしい大会を運営してくださった役員の皆様、他にも本当にたくさんの方々のご指導、ご支援があったからこそハンドボールをやらせてもらえたと思っています。これからもこの気持ちを忘れることなく生徒と共にハンドボールに携わっていければ幸いです。

写真提供・スポーツイベント社

第30回 日本ハンドボールリーグ「ANA CUP」プレーオフ

優勝チーム 監督／選手 手記

男子優勝チーム 大同特殊鋼

■姜　在源 監督

お蔭様で、先日のプレーオフでは９年ぶり10回目の優勝を飾る事が出来ました。コートのうえで戦った選手は勿論でありますが、大会を開催してくださった多くの関係者、日本リーグ委員の皆様方、また１年間暖かいご声援をおくり続けてくれた、フェニックスファン・応援団や家族の皆さん、バックアップしてくださった会社関係者、部員の職場上長など、多くの方の力を借りて、栄冠を勝ち取る事が出来ました。本当にありがとうございました。

2005年５月より本格的なチーム創りがスタートし、私が最初に掲げたテーマは「スピード」、とにかく、全てにおいてのスピードの追求でした。走る、投げる、飛ぶ、この動きを速くする事を第一の課題にあげました。世界は攻撃回数80回に近い数字で戦っており、観客を飽きさせないアップテンポで魅力あるハンドボールを展開しています。パッシブプレー、クイックスタート、３次FBと現代のハンドボールは凄いスピードでどんどん変化しています。その変化に乗り遅れることなく、今のルール・流れに合った内容のトレーニングで日々鍛錬いたしました。

勿論、トレーニング内容は限られた時間の中で効果を出さないといけないため、決してやさしいものではありませんでした。それについて来てくれた選手には、本当に感謝しております。正直、心身ともに厳しいトレーングで、休みも少なく大変な時期もありましたが、世界に通用するハンドボールチームを創るにはやらなければならないと、心を鬼に突っ走ってきたところです。

05年度を振り返れば、最初のタイトルがかかった実業団選手権で優勝し、全日本総合選手権では涙を飲み、最後が９年ぶりのリーグ制覇、本当にいろいろな、よい経験をさせてもらったと感謝しています。

本当に素晴らしい一年ではありましたが、フェニックスが目指す目標は「四冠達成」。今年の結果に奢ることなく、日々のトレーニングを精進し頑張る所存であります。これからも、大同フェニックスに暖かいご声援よろしくお願いいたします。

■高木　尚 選手

第30回日本ハンドボールリーグプレーオフに９年ぶりに優勝することが出来ました。まずもって大会の運営に当たられた方々、そして遠方より駆け付けて頂いた多くのファンの皆様に御礼を申し上げます。

４月から大同特殊鋼は姜新監督を迎え、今までのハンドボールに対する取り組み方の意識を改革することから始まりました。日ごろのトレーニングは勿論のこと、生活管理など様々な面で妥協しない強い精神力を身につけるためチーム皆で苦しいときに声を掛け合い乗り越えてきました。

スピードハンドボールを重点に置き年間を通して基礎トレーニングに重点を置き取り組んできたことと、海外遠征も経験し、勝負に対する執念もチーム全体に浸透したことが競り合った試合の強さにもなったのではと思います。

私自身も１年間で好不調の波があり、そのなかで自分のことを常に見つめなおして多くのことを学んだ一年間でした。

監督が常日頃口にする言葉は「チームワーク」です。トレーニングしている全員が役割を自覚し、強い大同を続けるためにもこれからもスピードハンドボールを追求していこうと思っています。また、ライバルチームに勝ち続けるために更なる努力を続け、ファンの方々を魅了できるチームを目指していきます。

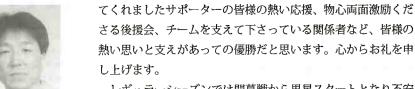
プレーオフ後、京都で開催されました東アジアクラブ選手権では韓国戦で１点差で敗戦しました。しかし韓国チームとの実力差がまだあることを感じました。北京オリンピックの出場をかけた予選が１年後に迫っています。スピードハンドボールに磨きをかけるとともに、ゴールを守る者として、更に努力する所存です。

先に述べましたが、今回の優勝は多くの関係者の皆様、ファンの皆様が支えてくださって成しえたものです。ありがとうございました。今年度も更なるご支援をお願い致します。

女子優勝チーム オムロン

■黄　慶泳 監督

第30回日本ハンドーボルリーグプレーオフで、オムロンが8年ぶり11度目の優勝を飾る事が出来ました。

オムロングループのハンドボールに対する理解そしてご支援、会場をピンク色に染めて選手達を奮起させてくれましたサポーターの皆様の熱い応援、物心両面激励くださる後援会、チームを支えて下さっている関係者など、皆様の熱い思いと支えがあっての優勝だと思います。心からお礼を申し上げます。

レギュラーシーズンでは開幕戦から黒星スタートとなり不安定の状況でしたが、試合を繰り返すごとにチームプレーに安定感が生まれ始め、選手個々が機能し始めていました。

第30回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了　3月5日

男子1部

順位		大同	大崎電気	湧永製薬	紡織	ホンダ	車体	ホン熊	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大同特殊鋼		33 30 40 ○●○ 32 37 36	29 27 32 ○●○ 21 28 31	32 37 37 ○○○ 31 31 28	35 30 35 ○○○ 30 26 30	30 31 37 ○○○ 21 29 30	32 36 40 ○○○ 20 21 21	18	16	0	2	603	503	100	32
2.	大崎電気	37 32 36 ○●● 30 33 40		32 33 28 ○●● 31 36 33	40 39 29 ○○○ 26 30 28	35 40 41 ○○○ 27 23 32	37 39 36 ○○○ 29 20 33	32 40 38 ○○○ 26 21 31	18	14	0	4	644	529	115	28
3.	湧永製薬	28 21 31 ○●● 27 29 32	36 31 33 ○●○ 33 32 28		26 23 25 ●●○ 28 24 24	34 36 28 ○○○ 29 28 21	28 24 29 ○○△ 24 23 29	25 31 24 ○○○ 15 24 23	18	12	1	5	513	473	40	25
4.	トヨタ紡織九州	31 31 28 ●●● 37 32 37	30 26 28 ●●● 39 40 29	24 28 24 ○○● 23 26 25		30 26 32 ○●○ 25 36 30	29 25 38 ●●○ 33 30 26	32 31 32 ○○○ 28 26 22	18	8	0	10	525	544	-19	16
5.	ホンダ	26 30 30 ●●● 30 35 35	23 27 32 ●●● 40 35 41	28 29 21 ●●● 36 34 28	36 25 30 ○●● 26 30 32		27 34 25 ○○△ 25 24 25	33 31 35 ○○○ 24 20 24	18	6	1	11	522	544	-22	13
6.	トヨタ車体	29 21 30 ●●● 31 30 37	20 29 33 ●●● 39 37 36	23 24 29 ●●△ 24 28 29	30 33 26 ○○● 25 29 38	24 25 25 ●●△ 34 27 25		36 36 31 ○○○ 25 29 28	18	5	2	11	504	551	-47	12
7.	ホンダ熊本	21 20 21 ●●● 36 32 40	21 26 31 ●●● 40 32 38	24 15 23 ●●● 31 25 24	26 28 22 ●●● 31 32 32	20 24 24 ●●● 31 33 35	29 25 28 ●●● 36 36 31		18	0	0	18	428	595	-167	0

女子

順位		オムロン	メイプル	ソニー	北國銀行	HC名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	オムロン		29 26 27 ○○● 25 24 30	39 26 28 ○○○ 28 25 25	26 25 30 ●○○ 28 23 21	35 28 38 ○○○ 11 19 20	12	10	0	2	357	279	78	20
2.	広島メイプルレッズ	24 25 30 ●●○ 26 29 27		31 28 42 ○●○ 30 42 37	30 33 32 ○○○ 18 18 27	40 26 28 ○○○ 15 14 24	12	9	0	3	369	307	62	18
3.	ソニーセミコンダクタ九州	25 28 25 ●●● 26 39 28	42 30 37 ○●● 28 31 42		29 32 34 ○○○ 22 26 31	41 33 39 ○○○ 20 29 22	12	7	0	5	395	344	51	14
4.	北國銀行	23 28 21 ●○● 25 26 30	18 18 27 ●●● 33 30 32	26 22 31 ●●● 32 29 34		26 30 29 ○○○ 20 28 20	12	4	0	8	299	339	-40	8
5.	HC名古屋	19 11 20 ●●● 28 35 38	14 15 24 ●●● 26 40 28	29 20 22 ●●● 33 41 39	28 20 20 ●●● 30 26 29		12	0	0	12	242	393	-151	0

男子2部

順位		北陸電力	HC東京	豊田合成	トヨタ自	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北陸電力		23 27 26 ○○○ 21 20 23	29 39 39 ○○○ 18 19 28	28 30 36 ○○○ 24 24 19	9	9	0	0	277	196	81	18
2.	HC東京	21 20 23 ●●● 23 27 26		35 38 34 ○○○ 28 29 22	24 28 25 ○○○ 20 19 17	9	6	0	3	248	211	37	12
3.	豊田合成	18 19 28 ●●● 29 39 39	28 29 22 ●●● 35 38 34		25 25 24 ●○○ 28 19 23	9	2	0	7	218	284	-66	4
4.	トヨタ自動車	24 24 19 ●●● 28 30 36	20 19 17 ●●● 24 28 25	28 19 23 ○●● 25 25 24		9	1	0	8	193	245	-52	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左がホーム、中がアウェイ、右が第3地域の結果を表す。

終盤戦に入って北國銀行に負けて黒星を喫する状況もありましたが、今年はレギュラーシーズンを1位での通過だけが優勝する大前提だと考えていただけに、1位を決める広島との最終戦は大事な試合でありました。振り返ってみて、その試合で一時期6点差まで突き放されても諦めない戦い振りで、最後には逆転勝ちしたのが一番大きかったと思います。

選手達の心理的な状況とチームの勢い、全ての面で優位に立たしてくれた試合であったと思いますし、自信から確信に繋がった試合でした。

この流れから決勝戦は自分達にとっては、全ての面で有利な条件が整えられて、前半立ち上がりから一気に勝負を決められた勝因だったと思います。

ゲームの中では広島の攻撃を守り切って勢いを与えなかった部分が一番の勝利の原因だと思いますし、理想とするゲーム展開が出来て優勝した事に嬉しく思っています。

最後になりますが、もう一度1年間サポートしてくれた関係者の皆様に感謝しますし、戦い抜いてくれた選手達にも感謝します。

そして、ここで満足するのではなく、さらに進化し強いオムロンの伝統を守りながら、皆様に愛されるオムロンチームを目指して頑張りたいと思いますので、これからも引き続き、ご声援を宜しくお願いします。

■佐久川ひとみ 選手

日本リーグプレーオフで11度目の優勝を達成する事ができました。何としても取りたかったタイトル、これまで7連覇という記録をもつ広島メイプルレッズを追い続け、振り返れば8年が過ぎていました。

レギュラーシーズンを1位で通過し、プレーオフでの優勝を目標に取り組んできましたが、年明けの広島戦以降はディフェンスに課題を残すゲームが多く、個々のシュートミス等で苦しい状態も続きましたがレギュラーシーズン終了後、昨年プレーオフ決勝戦で負けた事を思い出し、再度課題修正しプレーオフに臨みました。

ゲームスタートより積極的なディフェンスを仕掛け、相手に楽なシュートを打たせず最後はキーパーとの勝負とし、速攻に結びつけられたチームの理想とする展開だったと思います。

それからコートの選手、ベンチ、スタンドと共有した一体感の中で何が何でも最後まで諦めない戦いができました。

日頃よりハンドボールに打ち込める環境を作って下さったオムロングループの皆様や地元でご支援、ご声援くださったサポーター、またホームページの掲示板に熱いメッセージを送って下さった皆様に支えられたおかげです。心から感謝の気持ちと嬉しさでいっぱいです。ありがとうございました。

優勝を自信とし、過信する事なくチーム一丸となって、2006年度も取り組んでまいります。今後ともご声援の程よろしくお願い申し上げます。

個人表彰

＜男子1部＞

賞		氏名	所属	記録	回数
最優秀監督賞		姜　在源	（大同特殊鋼）		初
最高殊勲選手賞		白　元喆	（大同特殊鋼）		初
殊勲選手賞		宮﨑　大輔	（大崎電気）		初
得点王		白　元喆	（大同特殊鋼）	150点	2回目
フィールド得点賞		宮﨑　大輔	（大崎電気）	122点	初
シュート率賞		東　俊介	（大崎電気）	0.770	初
7mスロー得点賞		白　元喆	（大同特殊鋼）	41点	初
7mスロー阻止率賞		高木　尚	（大同特殊鋼）	0.364	初
最優秀選手賞		白　元喆	（大同特殊鋼）		2回目
最優秀新人賞		中畠　嘉之	（トヨタ紡織九州）		
ベストセブン	GK	坪根　敏宏	（湧永製薬）		6回目
	CP	豊田　賢治	（大崎電気）		2回目
	〃	村上　秀行	（トヨタ紡織九州）		初
	〃	山口　修	（湧永製薬）		5回目
	〃	白　元喆	（大同特殊鋼）		3回目
	〃	岩本　真典	（大崎電気）		3回目
	〃	宮﨑　大輔	（大崎電気）		2回目
ベストディフェンダー賞		永島　英明	（大崎電気）		2回目
フェアプレー賞		湧永製薬　98点／18試合（5.4点／試合）			

＜女子1部＞

賞		氏名	所属	記録	回数
最優秀監督賞		黄　慶泳	（オムロン）		初
最高殊勲選手賞		勝田　祥子	（オムロン）		初
殊勲選手賞		菅野　喜恵	（広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ）		初
得点王		田中美音子	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	92点	4回目
		郭　恵静	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	92点	2回目
フィールド得点賞		郭　恵静	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	79点	3回目
シュート率賞		田中美音子	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	0.667	初
		青戸あかね	（広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ）	0.667	2回目
7mスロー得点賞		吉田　祥子	（オムロン）	38点	初
7mスロー阻止率賞		高森　妙子	（広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ）	0.375	初
最優秀選手賞		田中美音子	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）		2回目
最優秀新人賞		谷口　尚代	（北國銀行）		
ベストセブン	GK	勝田　祥子	（オムロン）		初
	CP	大前　典子	（広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ）		2回目
	〃	佐久川ひとみ	（オムロン）		5回目
	〃	青戸あかね	（広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ）		2回目
	〃	東濱　裕子	（オムロン）		初
	〃	郭　恵静	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）		2回目
	〃	田中美音子	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）		9回目
ベストディフェンダー賞		坂元　智子	（オムロン）		初
フェアプレー賞		ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州　93点／12試合（7.8点／試合）			

＜男子2部＞

賞		氏名	所属	記録	回数
最多得点賞		桜井　渉	（北陸電力）	68点	初
		福田　拓馬	（トヨタ自動車）	68点	初
フィールド得点賞		神田　友和	（北陸電力）	59点	3回目
シュート率賞		髙橋　準	（北陸電力）	0.609	3回目
7mスロー得点賞		桜井　渉	（北陸電力）	35点	初
7mスロー阻止率賞		安藤　功規	（北陸電力）	0.294	2回目
		佐藤　優	（トヨタ自動車）	0.294	初
最優秀新人賞		水野　裕矢	（HC東京）		
敢闘賞	GK	佐藤　優	（トヨタ自動車）		初
	CP	髙橋　準	（北陸電力）		初
	〃	桜井　渉	（北陸電力）		2回目
	〃	落合　信也	（北陸電力）		2回目
	〃	神田　友和	（北陸電力）		4回目
	〃	福田　拓馬	（トヨタ自動車）		初
	〃	田中　将	（HC東京）		初
ベストディフェンダー賞		佐藤　豪洋	（豊田合成）		初
フェアプレー賞		豊田合成　76点／9試合（8.4点／試合）			

＜審判表彰＞

賞	氏名
最優秀レフェリー賞	家永昌樹（大阪府）・福島亮一（熊本県）
最優秀新人レフェリー賞	該当なし

寄稿 第30回日本リーグプレーオフ・ファイナルを観戦して

井　薫　元 日本代表女子監督

第30回日本リーグのプレーオフ・ファイナルを観戦した。古豪復活、そんな表現がぴったりの男子・大同特殊鋼の９年ぶり10度目、女子・オムロンの８年ぶり11度目の優勝だった。就任から短期間で結果を出した男子の姜在源、女子の黄慶泳両監督の手腕を評価したい。

満員のスタンドは男女４チームの応援席がそっくり入れ替わる盛況で、景気回復の兆しとはいえ企業スポーツを取り巻く厳しい環境のなか、チームを支つづけていただく、それぞれの企業の熱意と努力に敬意を表したい。加えて正月のテレビ番組『スポーツマンNo.１決定戦』で見事、総合No.１に輝いた、大崎電気の宮﨑大輔選手を見たい一般のファンも多くつめかけ、スター選手の躍動感あふれるプレーに会場は大いに盛り上がった。

女子の広島メイプルレッズ対オムロン、この数シーズンの経緯から興味深かったが、緊張した前半のしのぎあいを抜け出したオムロンが、８点の大差をつけたのは、チームの勢いだろう。３年目の東濱裕子選手の成長は大きな可能性を感じた。しかし後半は両チームともにプレーが散漫になり、締まりの無いゲームになった。双方にイージーなシュートミスが多く大味な内容は、多くの観戦者だっただけに残念だった。

男子の大同特殊鋼対大崎電気戦、立ち上がり５点を連取してリズムをつかんだかに見えた大同だったが、大崎のふんばりであっと言う間に同点、ゲームは終了間際までもつれて面白かった。ただ、最近の傾向とはいえ双方が交互に５点連取する間に、何とか打つ手はないのかと思う。同様に後半は大同の白選手、大崎の宮﨑大輔選手のスリリングな打ち合いとなったが、特に白選手のシュートに対する大崎の防御の工夫の無さが目についた。得点したら次の相手の攻撃を封じてこそ先の得点が生きるわけで、取り合いのシーソーゲームでは勝てない。

女子はシュートにミスが多く、男子はディフェンスラインのもろさと、ＧＫの存在感がとぼしかった。

最近の好ましい傾向としては、プレーヤーの活動期間が男女ともに、長くなってきたこと。選手生活の環境的改善もあるだろうが、筋トレや体調面の個々の自己管理そしてチーム単位の禁煙などを励行している例もあり、すばらしいことだと思う。

しかし、チーム管理、選手育成という観点からは、男子の日本リーグ参加企業は、自社チームのスタッフについて、どう捉えているのかさっぱり見えてこない。

多くのチームが主力選手の引退後に、チームに短期間スタッフとして残すが、そのサイクルが短すぎて、指導力も方向性も見えぬ間に次の引退選手と交替させる、この安易な監督起用を、日本リーグがスタートして30年になるが、愚直にもくり返している。

チーム強化の方向性が定まらないため、選手のスカウティングにしても一貫性がなく、まして育てる期間もなく、ただ与えられた戦力で戦うのみの存在が多すぎる。監督を任せたら少なくとも５年、８年から10年くらいチームを任せる度量が求められる。その分、就任に際しての適性は十分に検討されるべきであるが。わりと長期にチーム指導に携わる大学チームに、それぞれのカラーがあり良い意味の伝統を感じるのは、この企業チームのチームスタッフ感の裏返しだろう。

マナーについて苦言を呈そう。オムロンの選手は判定に対して、そんなに強いアピールではないが、何度も手を広げて不満を表し、結局は２分間の３度目の累積で失格となったが、もっと早い時点でレッドカードを受けてもおかしくなかった。

もう一つ広島の選手に特に多いプレー中の倒れ込むしぐさ、この際少し詳しくふれておきたい。これは韓国のプレイヤーに多いマナーだ。状況としては接戦、もしくはリードを許している場面での接触プレーで、理由は①判定に対するクレーム②接触相手へのクレーム③ゲームの流れを変えたい時④疲労回復目的等であるが、厳しく言えばもう見飽きたマナーだし、最近は日本選手も真似て始末が悪い。倒れた状況が頭部あたりの強打は慎重を要するが、その他はさっさと倒れたコート外に運び出して、ゲームを進行させることが肝心、大切な場面だったら倒れた本人がすぐに起き上がってプレイに参加するはず。今後も散見されたらブーイングものだろう。

さて、男子ファイナルを女性レフェリーに任せた判断も、男女共生社会の今日的演出で好感がもてた。本場ヨーロッパ、旧ユーゴのセルビア・モンテネグロからのペアだったが、大観衆に臆することなく立派だった。

かつて立石電機（現オムロン）時代に、旧ユーゴから７年間に６人の選手を招いて、あいさつ程度は出来るので、「ドブロ・ドッシュリー・ウー・ヤーパン（日本へようこそ）」と語りかけたら２人はびっくりしていたし、日本の感想を「ずっと憧れていた国で、来日出来たことがとても嬉しい」と語ってくれた。

男女の日本代表が揃ってモントリオール五輪に出場した1976（昭和51）年に、それを記念してスタートし、時を重ねて今回30回の節目の日本リーグ、セレモニーにも幾つかの試みがあり、大いに楽しめた。さらなる飛躍を期待したい。

特別寄稿

「日本ハンドボールリーグ」発足30周年を迎えて

安藤 純光　元（財）日本ハンドボール協会専務理事

「日本ハンドボールリーグ30周年感謝の集い」より（2006. 3. 19）

1976年9月4日に東京都体育館に於いて、【日本ハンドボールリーグ】が歴史的な幕を開けました。以来ハンドボールを囲むファンの皆さん、開催地協会、参加チーム、運営委員会など関係者の大きな努力によって、めでたく30周年を迎えることができました。ご尽力いただいた方々に、とくに開催にご協力いただいた都道府県協会の各位に、発足以来運営に携わった一人として、ここに改めて敬意を表し、30周年を祝いたいと存じます。

【日本リーグ】は発足の前々年辺りから、当時発足間もない「実業団リーグ」サイドから他の競技団体のように【日本リーグ】の新設をという提案が出ていました。そして「実業団リーグ」の名称を、【日本リーグ】とするなどの提案もなされました。しかし、日本協会は【日本リーグ】は一連盟によって成り立つものではなく、傘下の連盟・クラブを網羅した、トップチームによって編成されたリーグを、日本協会が運営すべきであるとして、【日本リーグ運営委員会】が設立されました。

参加チームは、男女とも8チームとし、各連盟大会の上位チームに参・不参加を問い、セレクションマッチを経て決定されました。当初日本協会が意図した「各連盟のトップチームの参加を得て」という結果には至りませんでした。学連・クラブチームは、経済的にあるいは学業と勤務の関係で参加が実現しませんでした。

そういう情況の中で男子に、「大阪イーグルス」（教職員連盟）の参加を得たことは【日本リーグ】にとって大変意義のあることでありました。

その後、幾つかのチームが社会的な情況や社内事情などによってリーグを去りましたが、新規加盟チームもありリーグの存立に大きな影響はありませんでした。

開催に当たっては『会場地の設定』が毎回の大きな課題でありました。リーグ開催の目的の一つは「日本のトップチームのゲームを、広く全国各地に展開し、ハンドボールを普及しよう」ということであります。各都道府県協会に開催地としての立候補を依頼しましたが、当初は男・女それぞれ56のゲーム数に見合う立候補が得られず会場の設定には苦労しました。理想としては1会場2ゲーム（男1．女1）が、3～4の集中的な開催をせざるを得なかった場合がしばしばありました。

回を重ねる毎に、開催地も北海道から沖縄まで全国各地に展開されるようになりました。また各会場での観客の数も、各開催地協会の努力もあって、意図した「多くの人に、高度なハンドボールを」の課題も徐々に実現される方向に向かいました。

この3月、プレーオフの入場券が完売されたという記事（朝日新聞）を見て、思わず「万歳」を叫んで家族に笑われましたが、30周年を迎える【日本リーグ】もここまで来たかと喜びました。

リーグ開催について【日本ハンドボールリーグ運営委員会規程】が設定されて、開催の目的について次のように述べられています。《参加チームの相互の錬磨によって、国内ハンドボール界の競技力向上と、ハンドボール競技の発展と普及を企てることを目的とする》。組織が変わり規程が変わっても、その目的とするところは変わらないでしょう。

リーグ開催のもう一つの目的「競技力の向上」はどうなっているのか？　元ナショナルチームのリーダーであった先輩からの年賀状に「日本のハンドボールはどうしたのでしょう」という添え書きがありました。小生も同感でありましたので、共鳴しておりました。

嘗て日本のハンドボールは、アジアではキングでありクイーンでした。城を明け渡して久しくなります。機関誌№469によれば、第12回アジア選手権大会になんと5位、底なし沼に落ち込んでしまったのか心配です。

ひとり【日本リーグ】だけが隆盛を見ることはありません。ナショナルチームの母体である【日本リーグ】の競技力向上がアジアの王座奪還に、そしてオリンピックにつながる道であります。できあがりつつある土壌に、大きな花を咲かせることになります。その日の近いこと祈って拙文を終わります。

～舞台はよし 北京へ一直線だ！～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

日本協会の積極的な招致への取り組みが成功、北京オリンピック男子アジア予選の開催地が日本に決まった。来年9月、新設の愛知県豊田市総合体育館（仮称）で行われる。

日本での予選開催はシドニー（2000年・熊本）アテネ（03年・神戸）に続いて3大会連続となった。それだけに一抹の不安があったことも確かだった。そのために日本協会が手を打ったのが、アジアハンドボール連盟（AHF）から要望されていたアジア男子ジュニア選手権（8月・広島）の受け入れと、男子に絞った招致である。高いといわれたハードルを乗り越えての決定は歓迎されてよかろう。

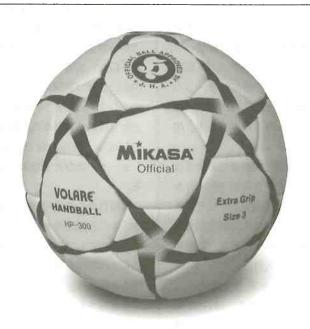
ともかく「日本開催」によって、悲願の五輪出場へ最初の障害は取り払われた。今後はこのチャンスをいかに、いやどうしても活かすことが求められる。

日本は五輪の舞台に男子は４大会、女子は７大会も立てていない。これまでにも何度もこのコラムの中で触れてきたが、日本のメディアの露出度は「五輪出場」が最重要視される。それだけに、もしも今回、目標が達成されなかったとしたら、ますますメディアは「ハンドボール」という競技に目を向けなくなる可能性が高いと言わざるを得ないだろう。

一方で、これほど五輪から遠去かっていると、感動の舞台の雰囲気を味わった選手もいない。これはすごく寂しすぎる不幸な出来事である。

「とにかく勝つんだ」という意識、意欲を選手、そしてチームがもっと真剣にとらえて前進しなければなるまい。前回の神戸での予選でも言われた「あと一歩まで近づいた」なんてコメントはもういらないし、今や、そんな生易しい時代ではない。豊田で勝たなければ、次回のロンドン大会はもちろん、ますます「五輪」という舞台が遠くに行ってしまうような気がしてならない。

幸い男子の監督にオルソン氏以来の外国人、イヴィツァ・リマニッチ氏が就任した。サウジアラビア代表監督を務めるなど中東情勢にもくわしい指揮官だと聞く。五輪出場権を手中にするには、中東勢や韓国など難敵は多い。だが、これらを破らない限りキップは手に入らない。強化と合わせ、相手の情報収集、分析も欠かせない。これらが一体となって機能してこそ、目標が現実になって、喜びに変わることになる。

とにかく、すべてを結集して「背水の陣」で北京へ突っ走ってもらいたいと願うばかりである。

もっと高く！天空の支配者・宮崎大輔物語 最終回

久保 弘毅 ハンドボールライター

写真提供：スポーツイベント社

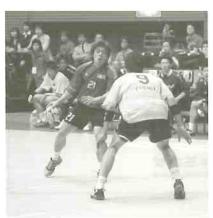
大崎電気に電撃入団

2004 年が明けてすぐ、宮崎は大崎電気と契約を結んだ。大学レベルでは満足出来なくなっていた宮崎にとってはごく自然な選択だった。

宮崎の入団会見は東京渋谷の岸記念体育館で行われた。ひとりの日本人選手のためだけの入団会見はハンドボール界では異例の出来事だった。

会見の席で宮崎は背番号を 21 番にした理由を口にした。

「日本ハンドボール界の 21 世紀を代表する選手になりたい、という思いで 21 番にしました。また選手紹介で最後に登場するためにも、大きな番号にしたかったんです」

実際、ホームゲームで最後に登場する宮崎に、観客はこれまでにない声援を送った。まさに真打登場といった盛り上がりである。「根が目立ちたがりですから」と笑う宮崎だが、注目されて喜ぶだけでなく、ファンのエネルギーを自分の力に変えていく術を知っているとも言えるだろう。

また大崎電気にとって宮崎は探し求めていたセンターだった。三陽商会から岩本真典、中川善雄、永島英明を加え、地力をつけてきた大崎電気だったが、センターに人材を欠いていた。器用な豊田賢治をセンターにしていたが、本来はサイドプレーヤー。豊田も悩みながらゲームメークをしていた。

そこに宮崎が加わったことでバランスの取れた布陣が完成した。豊田は本来の右サイドに戻り、神出鬼没な動きを取り戻した。責任を背負いすぎていた岩本も要所を締めるプレーに専念出来るようになった。主将中川と宮崎とのコンビネーションも冴え渡った。宮崎というラストピースがはまり、大崎電気は名門復活の道をたどる。

宮崎の日本リーグデビューは 2004 年 1 月 11 日、熊本県立総合体育館でのホンダ熊本戦。ここで 6 得点をあげて勝利に貢献すると、1 月 17 日にはホームの埼玉県八潮市鶴ヶ曽根体育館で 12 m付近からのロングシュートを叩き込み、場内をどよめかせた。

以後の宮崎の活躍と大崎電気の躍進は御存知の通り。04 ～ 5 年の 29 回日本リーグでは、宮崎は最優秀選手賞と新人賞を獲得。プレーオフでも大崎電気の日本リーグ初制覇に貢献し、最高殊勲選手賞のタイトルも手に入れた。

05 年 12 月の全日本総合ではチームを 16 年ぶりの優勝に導き、MVP に輝いた。30 回日本リーグでは惜しくも優勝を逃したが、宮崎は 122 得点でフィールドゴール得点賞に輝いた。7 mスローを除く得点で、韓国代表のエース白元喆（大同特殊鋼）を上回った。

日本のエースとして

ここで日本代表としての宮崎大輔の活動も振り返っておく。19 歳で宮崎は初めて日本代表に選ばれた。最初は試合のビデオ撮影などメンバー外の雑用をこなしていたが、次第に頭角を現わす。圧倒的なジャンプ力にシュートテクニック、さらには先輩相手でも意見が言える物怖じしない態度で、20 歳になる頃には誰もが「エースは大輔」と認めるまでに成長した。

日本代表での背番号は 7 番。中山剛（現湧永製薬監督）がつけていたエースナンバーを引き継いだ。中山と言えば、福岡大学在学時から日本代表として活躍。19 歳の時に 2 mを越すロシアの選手の上からロングシュートを決めたという逸話を持つ。当時ロシアの壁を打ち抜いた中山の活躍は衝撃的と言われた。その中山より 15 ㎝も小さい宮崎が 2 mの壁の上から決めるのだから、観客は魅了されてしまう。国際大会でも宮崎のロングシュートにはひときわ大きな歓声が上がる。

宮崎自身も背番号 7 に愛着を持っている。中山と顔を合わせると必ず「背番号 7 を大切にしています」と挨拶する。背番号 7 は世界の壁を打ち破る男の番号と言えるだろう。

背番号へのこだわりとは異なり、宮崎はエースとしてのプライドを滅多に口にしない。エースの条件を聞かれても、宮崎は必ずこう答える。

「僕がエースとは思っていません。僕だけがエースじゃなくて、全員がエースなんです。ハンドボールはみんなで戦っていく競技。だからみんなが力を出してひとつになったチームが一番強いんです」

宮崎は常に個の強さを追求する。仲間に対しても、自分自身に対しても。日本代表では常にトップスコアラーでありながらも、全員がエースという思いは変わらない。

自分で全てを背負う意識を持たないようにしているからか、宮崎の行動はいつも自然体である。03年に神戸で行われたアテネ五輪最終予選の前に、宮崎は報道陣に宛てて手紙を送った。ハンドボール日本代表の報道と応援をよろしくお願いします、という文面には思いが込められていた。

その最終予選で日本は最大のライバル韓国と引き分け、得失点差でアテネ五輪出場を逃した。大会最後の記者会見が終わると宮崎は記者室に立ち寄り、報道陣に挨拶をした。

「大会期間中、本当にありがとうございました。これからも日本のハンドボールをよろしくお願いします」

当時の宮崎はまだ22歳。ハンドボールのために、ここまで素直に頭を下げられる若者も珍しい。しかも自然体で、何の気負いも感じられない。宮崎大輔だけが持つ、天性の人を惹きつける力と言っていいだろう。

その宮崎の魅力は今も変わらない。試合後のサイン会で最後まで丁寧にサインをする宮崎の姿は、大崎電気ではありふれた光景になっている。

日本代表としての宮崎は決して順風満帆とは言えなかった。02年の釜山アジア大会では大会途中に脛を疲労骨折してしまった。03年のアテネ五輪最終予選では、同点で迎えた韓国戦の残り3秒という場面でフリースローを託された。しかし韓国の執念に阻まれ引き分けに終わった。04年のアジア選手権では執拗なマンツーマンディフェンスに苦しみ、世界選手権出場を決めたとは言え、宮崎個人は不完全燃焼だった。

まだまだ乗り越えないといけない壁は多いと宮崎も感じている。特にアジアで勝つには、主にクウェートなどに有利な判定をする「中東の笛」にも勝つ必要がある。

「試合中は大好きなハンドボールに集中したいのに、プレー以外で神経を使わないといけないから楽しくないですよ」

実に宮崎らしいコメントである。しかし理不尽な判定に屈しているだけでは道は開けない。今年2月のアジア選手権で韓国の戦いぶりを見て、宮崎は改めて「本物の強さとは何か」を考えるようになった。

「一方的な判定があっても韓国は戦いました。監督が失格になっても諦めませんでした。どんなに辛くても声を出して、味方を盛り立てていました。だから会場全体が韓国を応援する雰囲気になったんだと思います。僕も知らないうちに韓国を応援していました。こういうのが感動を呼ぶ試合なんでしょうね。日本代表もこんな試合が出来るよう、もっと強くならないと」

これから

今年の5月、日本代表監督にイヴィッツァ・リマニッチが就任した。積極的なディフェンスシステムからの速攻をテーマにする新監督の方針は、これまで以上に宮崎の良さを引き出すだろう。

イヴィツァ・リマニッチ新監督（右）と

大崎電気ではチームの方針もあって攻撃専門になることも多い。だがディフェンスからの速攻は、宮崎が本来得意とするプレーのひとつである。速攻やクイックスタートでボールを持つと、宮崎は高速ドリブルで切れ込んでいく。極端に言えば、コートの端から端までドリブルで突っ走っていくのである。そして相手ディフェンスが揃わないうちに軽々と得点を奪う。

速攻の話題になると、宮崎はいたずらっ子のような笑みを浮かべる。

「僕はディフェンスもやった方がパフォーマンスレベルも上がるんです。速攻でのドリブル、見てくれました？」

新しいシーズンは宮崎のディフェンスと速攻にも注目してほしい。

今年の6月6日で宮崎は25歳になった。いつになるかは分からないが、近い将来、もう一度海外でプレーすることを宮崎は思い描いている。また北京五輪に出場するという大きな目標もある。自分の未来を語る宮崎の言葉は希望に満ちあふれている。

「僕はまだまだ伸びていきますよ。自分のハンドボール人生、これからがピークですからね！」

宮崎大輔は一体どこまで伸びていくのだろうか。その可能性はまだ天井を知らない。（文中一部敬称略）

NTS2006報告

NTSコーディネーター　田中　茂

2000年からスタートしたNTS、本年度も5月20日・21日と世界のハンドボール動向をしっかり見据えた上でのNTS2006シミュレーションをNTSスタッフ、ナショナルスタッフチームのメンバーで既に開催しており、本年度も充実した内容のトレーニングが各ブロックで開催される事となっております。

また、各地で行なわれますブロックトレーニングの日程・開催地が決定いたしましたのでご連絡いたします。

ブロックトレーニングにつきましても、より多くの指導者に会場に足を運んでいただき、観て頂ければと思います。

各会場ともに見学は自由となっておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

以下、各ブロックトレーニングの日程、開催地、NTSブロックトレーニング推薦基準をお知らせいたします。

NTS2006ブロックトレーニングスケジュール

開催ブロック	開催日	開催場所
北海道ブロック	9月2日・3日	函館大学体育館
東北ブロック	8月7日・8日	花巻市総合体育館
関東ブロック	8月26日・27日	富岡市民体育館 富岡高校 富岡東高校
東海ブロック	8月19日・26日・27日	愛知高校 東海市市民体育館 ブラザー工業体育館 名古屋市立北高校
北信越ブロック	7月8日・9日	柏崎総合体育館
近畿ブロック	8月25日	県立橋本体育館
中国ブロック	8月9日・10日・11日	湧永満之記念体育館
四国ブロック	9月2日・3日	高知女子大学体育館
九州ブロック	8月21日・22日・23日	山鹿市総合体育館 オムロン鹿陽センター
沖縄ブロック	7月8日	沖縄市総合運動場内体育館

NTS2006ブロックトレーニング推薦基準

参考（センター推薦基準）

		高校男子	高校女子	中学男子	中学女子
形態	身長	185cm	170cm	180cm	167cm
	体重				
	利き手				
運動能力	30m走	4.02sec	4.55sec	4.22sec	4.68sec
	立ち五段とび	13.63m	11.19m	12.57m	10.72m
	ハンドボール長座投げ	26.40m	19.22m	25.60m	15.82m
	背筋力	191kg	136kg	171kg	109kg
	握力				

推薦理由

①日本ハンドボール協会、強化部会から推薦を受けている選手（強化指定選手・アンダーナショナル候補選手）
②センタートレーニング形態的特長基準を上回る選手
③センタートレーニング運動能力的特長基準を２項目以上、上回る選手
④技術戦術的特長を有する選手
⑤その他の理由で推薦に値する選手

＊本年度も7月・8月・9月に各地で開催されますNTSブロックトレーニングですが、各開催地責任者、インストラクター、関係各位におきましては色々な面でのご協力をお願いするかと思いますが、その際は宜しくお願い致します。

第4回ハンドボールコーチング研究会

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高校）

平成18年3月19日、渋谷：ホテルサーブ会議室において、第4回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本年の研究会は昨年と同様、日本リーグプレーオフに併せての開催となり、また、本年は「NTS」の活動の一環として位置付けをして、さらに内容の充実を図って行われました。

本研究会は、全国の指導者が自身の経験・知見を持ち寄り、ハンドボールの科学的な分析を通して日本ハンドボール界の発展に寄与しようとするものです。学術的な研究を中心としたものではなく、実際の現場で有用な情報を提供する機会として、平岡秀雄先生（東海大学）を中心に4年前、熊本県山鹿市で第1回が開催され、早くも第4回を迎えることとなりました。

学術的にも評価される研究の場でありたいとも考え、本研究会で発表した内容は、第3回大会より日本ハンドボール協会発行の「ハンドボール研究」に論文として発展させ、投稿できることとなりました。

本年は発表申し込み11件となり、発表者も現ナショナル女子監督バウワー氏をはじめ、大学院生から大学の教員、一般企業の方まで幅広く、また発表内容も動作・ゲーム分析から選手の体力評価に関する内容など多岐に渡りました。

ベルト・バウワー氏の発表をはじめ、各コーチの発表は意義深く、またコーチとしての鋭い質問や、心和むアドバイスなども交わされ、和やかな雰囲気の中にも、熱のこもった意見交換が行われた有意義な会となりました。

今後も、先生方だけでなく多くのコーチを巻き込み、ハンドボールの指導・分析視点や事例を発表して頂き、切磋琢磨していきたいと考えます。また、全国の熱心なコーチを多く集めて、「ハンドボール学会」にまで発展させられればと考えております。

バウワー監督

田中守氏

田村修治氏

【開会の挨拶】　研究会事務局　平岡秀雄

【協会代表挨拶】　担当常務理事　角　紘昭

【発表演題】

①女子日本代表チームのコンセプト
　ベルト・バウワー、藤本元（日本ハンドボール協会）

②パソコンを利用したリアルタイムゲーム分析システム
　島尻　真理子（日本女子体育大学大学院）

③ハンドボール競技における1対1における効果的な突破法に関する研究
　西剛志　明石光史　田中守（福岡大学）

④NTS優秀選手の新体力テストによる結果と評価
　安達隆博（中京大学）斉藤慎太郎（大同工業大学）田中守（福岡大学）
　白井克佳（国立スポーツ科学センター）栗山雅倫（東海大学）

⑤ダートフィッシュ・ソフトウェアのゲーム分析機能の紹介
　藤井透（㈱ダートフィッシュ・ジャパン）

⑥ハンドボールの個人戦術能力評価に関する基礎的研究
　栗山雅倫（東海大学）

⑦ハンドボール競技におけるシュートに対するゴールキーピング研究
　明石光史　谷川大幸　畑康之　田中守（福岡大学）

⑧ハンドボール競技におけるシュート動作に関する研究
　山下純平（筑波大学大学院）

⑨ハンドボール競技に特化した体力測定項目の検討
　田中守・河合瑛実・明石光史・西剛志（福岡大学）安達隆博（中京大学）
　斉藤慎太郎（大同工業大学）白井克佳（国立スポーツ科学センター）
　栗山雅倫（東海大学）

⑩ハンドボールのシュート技術に関する3次元解析
　田村修治（東海大学）

⑪ハンドボールに関する攻防活動の評価
　平岡秀雄　田村修治　栗山雅倫（東海大学）

コーチング研究会参加会員（順不同・敬称略）

明石光史（福岡大学）
安達隆博（中京大学）
小笠原一生（産業技術総合研究所）
岡本　大（国士舘大学）
加藤尊康（手代木中学校）
栗山雅倫（東海大学）
斉藤慎太郎（大同工業大学）
斉藤　隆（江津高校）
笹倉清則（日本女子体育大学）
島尻真理子（日本女子体育大学大学院）
清水博之（大同特殊鋼）
角　紘昭（日本ハンドボール協会）
田中　守（福岡大学）
西　剛志（福岡大学）
浜田琴美（武蔵丘短期大学）
福井孝明（大阪経済大学）
藤井　透（ダートフィッシュ・ジャパン）
藤本　元（岐阜大学大学院）
水上　一（筑波大学）
山下純平（筑波大学大学院）
吉近充洋（広島メイプルレッズ）
蒲生晴明（中部大学）
白井克佳（国立スポーツ科学センター）
村松　誠（駒澤大学）
池田　修（福岡教育大学）
三輪一義（琉球大学）
田村修治（東海大学）
平岡秀雄（東海大学）
舎利弗学（学校法人福島高校）

所属は開催日時点

2006年度　全国大会審判員名簿

（平成18年6月2日現在）

大会名	開催地	期　日	審　判　員　氏　名
実業団選手権 （7ペアー）	佐賀県	7月26日 〜 7月30日	◎吉田　敏明　○中地　健三　○柳本　英雄　安田　寛・永春　文義（東　京） 黒木　秀吾・黒木　龍二（東　京）　池渕　智一・檜崎　潔（岐阜広島）　冨田　拓・福田　弘（茨　城） 多田　和生・中舘　豊（岩　手）　平島　哲也・川端　祐貴（福　岡）　金子　弘明・児玉浩三郎（長　崎）
全国高校総体 （24ペアー）	大阪市 堺市	8月1日 〜 8月7日	◎細沢　覚　○大橋幹正　○武智誠治　○工藤康夫　○伊藤保仁　○小山　勉　○吉田敏明 浜田　浩和・小笠原久郎（東・北道）　大槻　嘉彦・藤井　俊朗（岡　山）　小林　一夫・土屋　雅男（埼　玉） 佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪）　石原　秀和・野島　祥之（岡　山）　亀山　耕司・水谷　省一（北海道） 山口　淳・川村　俊彦（岩　手）　森　義則・佐々木充宏（秋　田）　比留間　康・北島　浩（東　京） 稲村　正・寿川　智博（埼　玉）　大石　克哉・桜打　佳浩（富　山）　土橋　邦彦・服部　博幸（長　野） 坪井　雅典・山口　祐輔（愛　知）　油上　智・中村　行志（静　岡）　各務　宗孝・杉山　寛政（岐　阜） 佐路　清隆・佐藤　晃（京　都）　寺内　啓之・細川　泰輔（大　阪）　飯田　一郎・早瀬　司（滋　賀） 佐川　正巳・秦　伊織（奈　良）　角　直樹・白川　裕隆（山　口）　山本　耕一・壷内　博章（愛　媛） 藤原　初・天野　誠司（徳　島）　浦川　寿生・石崎　章弘（長　崎）　権藤　洋文・上志羽　亮（佐　賀）
（4ペアー） ジャパン オープン （8ペアー）	秋田県 大仙市 湯沢市	女子 8月9日 〜 8月11日 男子 8月9日 〜 8月12日	◎島田房二　○田村　登　○古関直樹 工藤　里花・外舘由美子（岩　手）　井口　京子・村田　紀子（東　京）　井料たか子・貞島　早苗（鹿島・佐賀） 小林きよみ・門口ますみ（愛　知） ◎島田房二　○田村　登　○中島昭博 家永　昌樹・福島　亮一（大阪長崎）　多田　和生・中舘　豊（岩　手）　岩上浩一郎・山口　弘夫（富　山） 萩原　亨・小松　大（秋　田）　渡部　努・高橋　一（秋　田）　越智　康裕・小澤　邦紀（福　島） 本田　義昭・本田　昭太（神奈川）　山本　淳・山本　孝志（島　根）
全国中学校 （8ペアー）	高松市 香川町	8月17日 〜 8月20日	◎齊藤仁宏　○中川利彦 安田　寛・永春　文義（東　京）　阿部羅大造・浜野　大助（石　川）　石原　秀和・野島　祥之（岡　山） 河合　哲・田中　潤（香　川）　坪井　雅典・田中　基明（愛　知）　神野　利雄・矢本　康成（兵　庫） 高橋　卓也・清水　修（高　知）　亀井　一寿・堀川　智宏（大　分）
国民体育大会 （18ペアー）	兵庫県 朝来市 養父市 三田市 高砂市	10月6日 〜 10月10日	◎島田房二　○小山　勉　○馬場保夫　○吉田敏明　○吉田正明　○川島克之　○越田義明 家永　昌樹・福島　亮一（大阪長崎）　植村　彰・仲田　稔（千　葉）　福田　弘・冨田　拓（茨　城） 佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪）　萩原　亨・小松　大（秋　田）　牧田　実・相坂　賢将（埼　玉） 大石　克哉・桜打　佳浩（富　山）　増田　克洋・藤坂　明雄（福　井）　金坂　英宣・談議所啓輔（石　川） 浅野　幹也・神谷　眞次（愛　知）　佐路　清隆・佐藤　晃（京　都）　川勝　宏治・川勝　裕義（京　都） 神野　利雄・矢本　康成（兵　庫）　森　覚・福永　賢一（奈　良）　松森三樹男・岡辺　清和（兵　庫） 三宅　秀明・森脇　雄治（岡　山）　武智　誠治・東福　康浩（愛　媛）　鶴田祐一郎・近藤　晋一（熊　本）
全日本学生 （3ペアー）	名古屋市	11月16日 〜 11月20日	◎狩野幸介　○岩本晃寿 黒木　秀吾・黒木　龍二（東　京）　池渕　智一・檜崎　潔（岐阜広島）　河合　哲・田中　潤（香　川） 他のペアは学連より選出
全日本総合 （8ペアー）	名古屋市	12月20日 〜 12月24日	◎島田房二　○ 審査指導委員会にて選出
JOCカップ （12ペアー）		12月23日 〜 12月26日	◎齊藤仁宏　○小山　勉 小林　一夫・土屋　雅男（埼　玉）　阿部羅大造・浜野　大助（石　川）　佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪） 村瀬　清史・石垣　正樹（北海道）　江原　秀一・前原　誠司（東　京）　藤井　善彦・中野　数也（福　井） 松尾　統央・野田　朋也（愛　知）　土松　稔和・梅木　信男（岐　阜）　伊藤　保仁・尾崎　浩祥（大　阪） 佐久間良幸・山下　信之（京　都）　多田　宣行・杉山　孝広（香　川）　渡邊　正德・和田　保典（宮　崎）
全国高校選抜 （24ペアー）	徳島市	2007年 3月24日 〜 3月30日	◎細沢　覚　○大橋幹正　○小川昌志　○武智誠治　○東福康浩　○中川利彦　○杉山孝広 大槻　嘉彦・藤井　俊朗（岡　山）　安田　寛・永春　文義（東　京）　多田　和生・中舘　豊（岩　手） 黒木　秀吾・黒木　龍二（東　京）　俵　英生・浅井　宏信（北海道）　山口　工・篠原　理（北海道） 大内　敦史・加藤　茂樹（宮　城）　岸波　重幸・野地　敏雄（福　島）　本田　義昭・本田　昭太（神奈川） 譲原　昭・新井　喜人（群　馬）　浅野　明彦・荻野　俊夫（神奈川）　松蔵　利明・徳光　明博（石　川） 根来　英介・青木　英樹（愛　知）　片山　聡・大岩　広人（静　岡）　井上　清光・山内　徹好（滋　賀） 寺内　啓之・細川　泰輔（大　阪）　林田　光秀・武田　憲樹（滋　賀）　神野　利雄・矢本　康成（兵　庫） 竹安　未央・吉田　達明（鳥　取）　山本　耕一・壷内　博章（愛　媛）　長谷部次雄・弘田　陸仁（高　知） 加藤　剛基・高畑　賢（香　川）　奥山　誠恒・海江田貴嗣（鹿児島）　上江洲　登・儀間　稔（沖　縄）
春の中学大会 （18ペアー）	氷見市	3月26日 〜 3月29日	◎島田房二　○中山光広　○齊藤仁宏 浜田　浩和・小笠原久郎（東京北海）　植村　彰・仲田　稔（千　葉）　高橋　容平・磯部　尚志（北海道） 嶋川　直樹・工藤　道一（青　森）　比留間　康・北島　浩（東　京）　戸塚　幸廣・勅使河原誠（群　馬） 泉水　孝浩・田中　啓輔（千　葉）　菅野　敏雄・白坂　篤（神奈川）　田中　宏育・屋敷　吉秀（富　山） 水内　隆夫・小林　智隆（新　潟）　服部　博幸・土橋　邦彦（長　野）　徳前　紀和・森　義久（富　山） 浅野　幹也・神谷　眞次（愛　知）　船谷　真和・丸山　竜司（三　重）　佐川　正巳・秦　伊織（奈　良） 前田　隆志・山本　剛（大　阪）　宮崎　光一・森本　嘉一（高　知）　浦川　寿生・石崎　章弘（長　崎）

◎は大会審判長、○は大会副審判長、未定部分は空欄

がんばれハンドボール10万人会

サポート会特別会員

福島県ハンドボール協会顧問
今野雅益
福島市伏拝字台田五ー十三

きびじアリーナから世界へ
第15回JOCジュニアオリンピックカップ
ハンドボール大会中国予選会
2006年8月26日、27日
第31回日本リーグ総社大会
2006年9月10日
第13回ピーチカップ西日本小学生ハンドボール大会
2007年2月27日、28日
NPO法人吉備スポーツ王国
理事長
村木理英
〒七一九ー一一五六
岡山県総社市門田五〇七

塩川安賢
〒一四三ー〇〇二四
大田区中央三ー十三ー十一

私たちは
ハンドボール
競技を
応援して
います

獣医師
岡部千秋
〒三七〇ー二三一六
群馬県富岡市富岡二八四ー三

元松山商科大学教授
元日本ハンドボール協会理事
元全国高等学校ハンドボール部常任委員
元四国ハンドボール協会理事長
元愛媛県ハンドボール協会理事長
平成十四年勲四等瑞宝章受章
松山市石手三丁目六番二〇号
越智武
越智誠

財団法人神奈川県体育協会副会長
神奈川県ハンドボール協会会長
斎藤達也
〒二二〇ー〇〇四一
横浜市西区戸部本町四ー八

スコアールーム ①

第1回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

期　日：2006年3月26日（日）～29日（水）
会　場：氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男子】

▼1回戦

泰星（福岡）	21－19	金沢西部（石川）
神埼（佐賀）	35－18	土佐（高知）
総社西（岡山）	25－24	隼人（鹿児島）
東久留米西（東京）	39－11	貴志川（和歌山）
氷見南部（開催地）	25－22	長森（岐阜）
高砂（兵庫）	29－24	平針（愛知）
白子（三重）	31－30	明野（大分）
月寒（北海道）	35－20	久米（愛媛）
けやき台（茨城）	41－25	光陽（福井）
大阪東（大阪）	24－23	小林（宮崎）
野辺地スポ少（青森）	29－24	朝桜（滋賀）
甘楽第二（群馬）	21－19	大住（京都）
若松（千葉）	28－22	清水第二（静岡）
大瀬（奈良）	40－22	柏崎・柏刈クラブ（新潟）
松橋（熊本）	33－13	岐陽（山口）

▼2回戦

野木第二（栃木）	23－22	鶴巣（宮城）
若松（千葉）	24－18	境港第二（鳥取）
氷見南部（開催地）	26－16	中央台北（福島）
氷見北部（富山）	18－16	大阪東（大阪）
神埼（佐賀）	27－14	十二月田（埼玉）
塩山（山梨）	30－21	総社西（岡山）
松橋（熊本）	35－25	埴生（長野）
東久留米西（東京）	31－22	城東（徳島）
湯沢南（秋田）	39－16	大瀬（奈良）
高砂（兵庫）	20－18	小島（長崎）
松園（岩手）	40－37	白子（三重）
中田（神奈川）	25－22	月寒（北海道）
けやき台（茨城）	35－26	尾花沢（山形）
泰星（福岡）	31－19	甲田クラブ（広島）
神森（沖縄）	49－10	野辺地スポ少（青森）
香川第一（香川）	21－19	甘楽第二（群馬）

▼3回戦

泰星	30（14－9、16－13）22	野木第二
神森	38（18－10、20－14）24	中田
東久留米西	36（20－15、16－14）29	松園
塩山	26（10－14、16－7）21	氷見南部
氷見北部	29（13－10、16－4）14	若松
けやき台	29（15－13、14－12）25	高砂
湯沢南	25（13－9、12－10）19	神埼
松橋	30（16－13、14－13）26	香川第一

▼準々決勝

東久留米西	24（12－9、12－12）21	泰星
湯沢南	26（11－11、15－14）25	氷見北部
神森	28（11－9、17－16）25	塩山
けやき台	23（11－7、12－10）17	松橋

▼準決勝

東久留米西	31（15－8、16－14）22	湯沢南
神森	29（14－12、15－8）20	けやき台

▼決勝

東久留米西	28（13－13、15－13）26	神森

【女子】

▼1回戦

吉川南（埼玉）	28－19	延岡（宮崎）
氷見十三（富山）	33－6	城東（徳島）
御幸山（愛知）	22－7	舞鶴（鹿児島）
石川（福島）	17－13	上（奈良）
松園（岩手）	23－17	神埼（佐賀）
岩国（山口）	16－15	氷見南部（開催地）

東　　陽（大　分）	51－2	城　　北（高　知）	
下　津　井（岡　山）	22－14	南　八　下（大　阪）	
神　　森（沖　縄）	21－19	芦　　城（石　川）	
鶴　　城（熊　本）	41－13	境港第二（鳥　取）	
西　笹　川（三　重）	28－14	野辺地スポ少（青　森）	
岩　　出（和歌山）	25－5	静岡東（静　岡）	
東久留米西（東　京）	25－9	香　　東（香　川）	

▼2回戦

茅野東部（長　野）	31－10	藤　　野（北海道）	
岩　　出（和歌山）	19－10	尾花沢（山　形）	
西　笹　川（三　重）	24－20	大久保北（兵　庫）	
甘楽第一（群　馬）	22－10	雄　　新（愛　媛）	
吉　川　南（埼　玉）	33－16	甲田クラブ（広　島）	
野木第二（栃　木）	30－28	氷見十三（富　山）	
東久留米西（東　京）	30－5	相　　浦（長　崎）	
日　　枝（岐　阜）	18－13	石　　川（福　島）	
松　　園（岩　手）	42－9	能登川（滋　賀）	
御　幸　山（愛　知）	17－12	松　　葉（千　葉）	
東　　陽（大　分）	29－10	山梨南（山　梨）	
明　　倫（福　井）	24－22	原　　北（福　岡）	
岩　　国（山　口）	16－13	培　　良（京　都）	
鶴　　城（熊　本）	26－11	水　海　道（茨　城）	
下　津　井（岡　山）	30－13	西　中　原（神奈川）	
神　　森（沖　縄）	40－23	羽　　後（秋　田）	

▼3回戦

吉　川　南	32（16－13、16－10）23	茅野東部
下　津　井	30（19－4、11－7）11	明　　倫
東　　陽	18（8－3、10－2）5	日　　枝
東久留米西	39（20－5、19－18）23	西　笹　川
鶴　　城	30（16－3、14－7）10	岩　　出
岩　　国	15（9－4、6－7）11	御　幸　山
野木第二	32（13－8、19－7）15	松　　園
神　　森	24（12－8、12－12）20	甘楽第一

▼準々決勝

東　　陽	29（15－7、14－14）21	吉　川　南
鶴　　城	23（12－8、11－9）17	野木第二
下　津　井	26（12－5、14－12）17	東久留米西
岩　　国	22（9－6、13－10）16	神　　森

▼準決勝

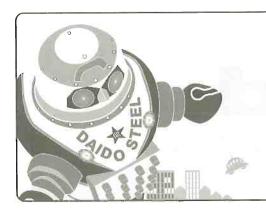
鶴　　城	26（13－7、13－10）17	東　　陽
下　津　井	17（8－6、9－5）11	岩　　国

▼決勝

下　津　井	26（14－12、12－5）17	鶴　　城

第11回ヒロシマ国際ハンドボール大会・第10回アジア男子ジュニア選手権
（兼 2007年男子ジュニア世界選手権予選）

開催要項

【主　催】アジアハンドボール連盟、(財)日本ハンドボール協会、中国新聞社
【主　管】広島県ハンドボール協会、広島市ハンドボール協会
【後　援】外務省、文部科学省、(財)日本オリンピック委員会、(財)日本体育協会、広島県、広島市、広島県 教育委員会、広島市教育委員会、(財)広島県体育協会、(財)広島市スポーツ協会、(財)広島平和文化センター、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、ふれあいチャンネル、広島リビング新聞社
【特別協賛】株式会社モルテン、株式会社アシックス
【大会期間】平成18年8月21日（月）～31日（木）
【参加国】日本、韓国、イラン、チャイニーズタイペイ、アラブ首長国連邦、中国、クウェート、オマーン、サウジアラビア、カタール、香港、マカオ、インド
【競技会場】広島市東区スポーツセンター

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」4月・5月入会・継続会員

【北海道】加藤慶仁、清水誠一　【岩手】上町祐隆、畠山　正、高橋元一　【福島】今野雅益　【栃木】石田正彦　【群馬】深澤佳意、高橋萬知子、高橋　泉　【埼玉】菊地知男、佐藤秀明　【千葉】高橋勝彦　【東京】緑川正博、塩川安賢、杉山　茂、武田和夫、出原　理、中澤重夫、兼子　真、梶間珠美　【神奈川】松岡正彦、澤田誠二、斎藤達也、近久紀人、佐分正典、萩原裕太、斉藤航大、伊藤勇貴、吉澤和美　【石川】下川　裕、酒谷信彦　【愛知】浅野幹也、安藤　孝、西川勤也、浅野克彦、村木啓作、金川康夫　【岐阜】森　勝博、森　三千世　【京都】小出淳子、小出紗智乃、小出将伍、佐野知治、川原崎雅彦、久保公雄、久保靖子、佐々木　漱　【大阪】小佐田年教、吉田敏明、大井隆史、伏田清実、小山章、神田　清、車　真佐克、草ノ井文子、大西和雄　【兵庫】西澤倫雄、高祖加奈子　【和歌山】能木　進　【岡山】片山　透、木村　誠　【広島】大橋季彦、山下明子　【福岡】田中　守、佐伯紘一、和佐野健吾、下田昭弘、松尾勝也

【7月の行事予定】

【会議】

7月8日(土)　常務理事会(東京)

【大会】

7月14日(金)～16日(日)
第26回全国クラブ選手権大会・西(岐阜県)

7月28日(金)～30日(日)
第26回全国クラブ選手権大会・東(福島県)

7月26日(水)～30日(日)
第47回全日本実業団選手権大会(佐賀県)

7月28日(金)～30日(日)
第19回全国小学生大会(京都府)

機関誌記載ミスの訂正とお詫び

機関誌５月号の「日本リーグプレーオフ」の記事中（３、５ページ）におきまして、「高円宮妃」様を「高松宮妃」様と誤植するという重大な記載ミスがありました。機関誌委員会といたしましては、今後このようなミスを起こさないよう、校正手順、チェック体制を見直し、改善していく所存でございます。

今後とも、機関誌をよろしくご愛読下さいますようお願いいたします。

HAND BALL CONTENTS Jun. Jul.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT

NEW THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0～29.0cm
- 2月上旬新発売

名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S

NEW THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0～29.0cm
- 2月上旬新発売

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

世界の空へ、笑顔を乗せて。

国内線のお問合せ 0120-029-222　国際線のお問合せ 0120-029-333　www.ana.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十八年六月二十六日印刷 平成十八年七月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表〇三ー三四八一ー二三六
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円